

## 会よりのお知らせ

### ○ 昭和 58 年度光学論文賞応募論文募集

昭和 58 年度光学論文賞の応募論文を募集します。応募資格等の要領は「光学」第 9 巻第 3 号 (1980 年 6 月) に記載の光学論文賞規定に準じます。自薦, 他薦ともに歓迎します。応募締切は昭和 58 年 10 月 20 日 (木)。応募および不明な点の照会は「光学」編集委員長西田信夫 (〒213 神奈川県川崎市宮前区宮崎 4-1-1 日本電気株式会社光エレクトロニクス研究所, 電話 044-855-1111 内線 2223) まで。なお, 本会として調査する雑誌は, 光学, 応用物理, Jpn. J. Appl. Phys., Appl. Opt., J. Opt. Soc. Am., J. Opt. (Paris), Opt. Acta, Opt. Commun., Opt. Lett., Optik の 10 誌です。自薦, 他薦の場合は掲載雑誌についての制限はありません。

### ○ 昭和 59 年度幹事立候補者募集

昭和 59 年度新選出幹事 (任期 2 年, 毎年半数交代) の候補として, 本会の運営に熱意のある会員諸氏の立候補を希望します。幹事選挙の内規は「光学」第 11 巻第 5 号 (1982 年 10 月) をご覧ください。立候補は自薦, 他薦を問いませんが, 他薦の場合は本人の承諾を要します。立候補締切りは昭和 58 年 9 月 1 日 (木)。立候補および不明な点の照会は庶務幹事今野邦男 (〒140 東京都品川区西大井 1-6-3 日本光学工業株式会社研究所, 電話 03-773-1111 内線 2478) まで。

### ○ 研究グループ募集

光学懇話会は研究グループに対してその活動を支援するために補助金を出しております。昭和 59 年度より補助を希望する研究グループは「光学」第 10 巻第 4 号 (1981 年 8 月) に記載の研究グループ内規をご覧ください。同内規第 2 項にもとづく申込み書を添えて昭和 58 年 11 月 21 日 (月) までに庶務幹事中山俊典 (〒351 埼玉県和光市広沢 2-1 理化学研究所, 電話 0484-62-1111 内線 3242) まで申し出てください。

### ○ 昭和 58 年度第 1 回常任幹事会

昭和 58 年 5 月 24 日 (火) に東京・虎の門の第 9 森ビルにおいて開催され, 講演会・講習会の計画, 会計, 「光学」編集などについて報告と審議が行なわれた。また, F 委員会答申 (第 1 次) についての検討が始められた。なお, 本年度から新旧幹事交代が 4 月となったため, 5

月の常任幹事会を第 1 回とすることとした。

### ○ 昭和 58 年度第 1 回編集委員会

昭和 58 年 5 月 11 日 (水) に東京本郷の学士会分館において開催され, 「光学」各号の編集状況と企画, 光学シンポジウム特集号の取扱いなどについて報告と審議が行なわれた。なお, 本年度から新旧編集委員の交代が 4 月となったため, 5 月の編集委員会を第 1 回とすることとした。

### ○ 第 16 回光学五学会関西支部連合講演会報告

「最近の画像技術と光計測」という主題のもとに, 昭和 58 年 2 月 4 日 (金) に大阪梅田の島津ホールで行なわれた。参加者は 69 名で, ほとんどの参加者が, 朝早くから夕方まで熱心に聴講されていた。カラー複写機, 超音波顕微鏡, サーモグラフィ装置, 製版用レーザスキャナについてはおのおののメーカーの技術者の方々より, これらの製品の現状とその応用についての講演があり, また, レーザ利用計測とエレクトロクロミック表示素子については, 大学の先生による基礎的な考え方の講演が行なわれた。アンケート結果によると, 参加費を現状を上回る 5,000 円にすべしとの意見が多かった。このことから見ても, 充実した講演会であったことがわかるであろう。

(幹事 岩田, 松浦)

### ○ 昭和 58 年度光学懇話会春季講演会報告

今年度は, 東京都調布市の航空宇宙技術研究所において, 研究施設, 概要の紹介という形で昭和 58 年 5 月 27 日 (金) に開催された。スライドを用いての研究所全容の紹介後, 講演 2 題を拝聴した。参加者は 33 名と昨年より少なかったが, 非会員, とくに他分野からの参加があった。見学では 2 班に分かれ, 風洞内部に入ったり, 飛行シミュレータの説明があるなど興味深く, 参加者は最後まで熱心に見学した。

今回の講演会の開催にあたっては興石肇氏をはじめ航空技研の各研究部門の方々に一方ならぬご協力をいただいた。厚くお礼申し上げます。(幹事 小宮, 河野)

### ○ 第 8 回光学シンポジウム報告

「光学設計, 加工, およびオプトエレクトロニクス」のテーマで, 昭和 58 年 6 月 20 日 (月) に東京六本木の東京大学生産技術研究所において開催された。参加者は, 光学, 電子, 学校関係者ほかで約 128 名であった。興味ある講演も多くあり, 意見や質問が活発に出され, 参加

者も十分に満足していたようであった。

また、光学シンポジウムは光学懇話会会員の発表の場として、今後多くの講演申込みを行なってほしいという意見もあり、会員の発表の場として十分に活用してほしいと思います。次回も多数の方々の出席をお願いいたします。(幹事 鈴木、国分、畑田、小島)

#### ○ 第44回応用物理学会学術講演会のお知らせ

昭和58年9月25日(日)~28日(水)に東北大学教養部(〒980 仙台市川内)において開催されます。詳細は応用物理学会(〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 209号の2, 電話 03-434-3848)へお問合せください。

#### ○ 昭和58年度光学懇話会関西講演会のお知らせ

本号別掲のとおり、昭和58年10月28日(金)に兵庫県尼崎市の電子技術総合研究所大阪支所において見学会を兼ねて開催されます。多数の皆様が参加されるようお願いいたします。

#### ○ 生理光学研究グループよりのお知らせ

##### ● 特別講演会の報告

鳥居修晃氏(東大教養)ならびに Davida Y. Teller 氏(Univ. of Washington)による生理光学研究会特別講演会が昭和58年6月23日(木)に東京大岡山の東京工業大学において、日本色彩学会関東支部との共催で開催された。鳥居氏は開眼手術者の色感覚や形態認知の獲得過程を長期にわたって調べ、その貴重な結果を具体的な例にもとづいて報告した。Teller氏は幼児の視力、色覚、両眼視による奥行弁別、時間分解能等の発達に関する講演を行なった。参加者は37名で盛会であった。

(製科研 斎田真也)

#### ○ ホログラフィック・ディスプレイ研究グループよりのお知らせ

##### ● 第21回研究会の予定

日時: 昭和58年8月26日(金)14:00~17:00  
場所: 東京工業大学長津田キャンパス  
東京急行田園都市線すずかけ台駅下車  
演題: 1. アートとしてのホログラフィー  
齊藤明子, 三田村峻右(筑波大芸術)  
2. 白色光再生平面型ホログラフィック・ステレオグラム 国生幸子, 本田捷夫,  
辻内順平(東工大像情報)

##### 3. 見学 ホログラム展示室と実験室

問合せ先: 〒227 横浜市緑区長津田町 4259  
東京工業大学像情報工学研究施設 本田捷夫  
電話 045-922-1111 内線 2090

#### ○ 光計測研究グループよりのお知らせ

##### ● 第10回光計測研究会の予定

日時: 昭和58年8月29日(月)14:00~17:00  
場所: 東京大学生産技術研究所第一会議室  
東京都港区六本木 7-22-1  
演題: 1. 光ファイバー・ジャイロについて  
保立 和夫(東大境界領域研)  
2. 光ファイバーの測定技術  
立田 光廣(電電公社武蔵野通研)

参加費: 300円(資料, お茶代)

問合せ先: 〒351 埼玉県和光市広沢 2-1  
理化学研究所光学計測研究室 山口一郎  
電話 0484-62-1111 内線 3242

#### ○ 微小光学研究グループよりのお知らせ

##### ● 第10回微小光学研究会の予定

日時: 昭和58年10月4日(火)13:00~17:00  
場所: 慶応大学工学部(電話 044-63-1141)  
横浜市港北区日吉 3-14-1

テーマ: 最近のトピックスより

演題: 1. 国際会議における発表及び発言の仕方  
John Scherb

##### 2. 研究報告

1) 応物学会および 2) 電通学会より

3. 見学 プラスチック GRIN ファイバほか

資料費: 1,000円(お茶代を含む)

問合せ先: 〒157 東京都世田谷区千歳台 6-16-1  
青山学院大学理工学部 庄野裕夫  
電話 03-307-2888 内線 244

#### ○ 光学懇話会協賛のシンポジウムのお知らせ

##### ● 理研シンポジウム「レーザーと音響映像法」

日時: 昭和58年10月20日(木)9:30~17:30  
場所: 理化学研究所(埼玉県和光市広沢 2-1)  
主催: 理化学研究所レーザー科学研究グループほか  
演題: ①光音響法の展望②光音響顕微鏡③電子顕微鏡による半導体計測④超音波顕微鏡⑤相関光音響分光法⑥光音響映像法と画像処理⑦光音響法と生体計測  
問合せ先: 本号光学関連会合予定参照(参加費無料)

## 昭和 58 年度光学懇話会関西講演会

今年度の光学懇話会関西講演会を見学会を兼ねて下記のとおり開催いたします。多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日 時：昭和 58 年 10 月 28 日(金) 14:00~17:00

場 所：電子技術総合研究所大阪支所

兵庫県尼崎市若王寺 3-11-46 (地図参照) 電話 06-491-5021

主 催：応用物理学会光学懇話会

協 賛：応用光学懇談会

プログラム：(1) 講演 「レーザと光ファイバーによる海域・水域の環境計測」

角井 嘉美 (電子技術総合研究所大阪支所)

(2) 見学 電子技術総合研究所大阪支所

測色を主とする光情報計測，色覚・嗅覚機構の研究，海中懸濁物質の光学計測，など

参加費：無料

交通：阪急電鉄 園田駅下車 徒歩 15 分

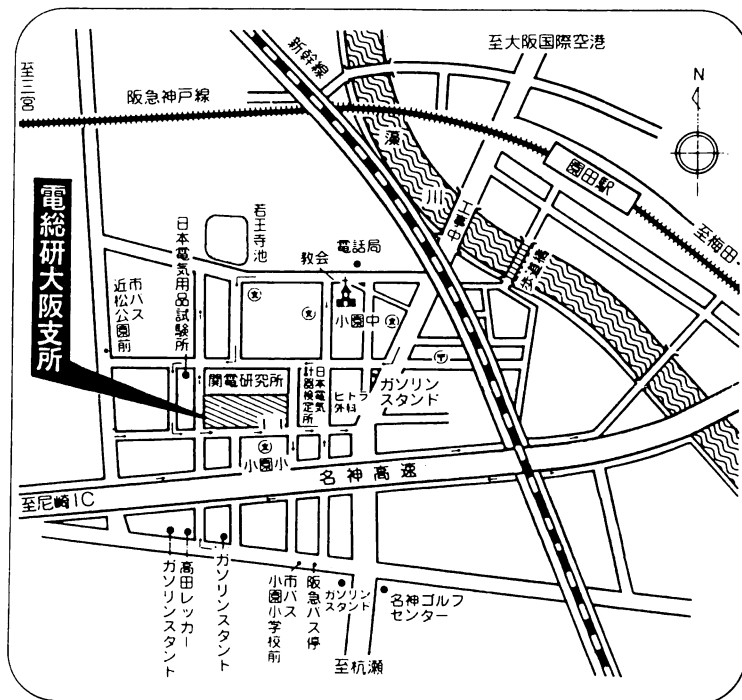
国 鉄 尼崎駅下車 尼崎市営バス

(1, 3 番) 乗車 10 分 小園小学校前下車 徒歩 3 分

問合せ先：〒591 大阪府堺市百舌鳥梅町 4-804

大阪府立大学工学部機械工学科 岩田 耕一

電話 0722-52-1161 内線 2236



## 正誤表

前号(第12巻第3号)に誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

谷口 宏・斎藤 弘・小林喬郎・稲場文男氏の研究「Ar ジェット放電励起方式色素レーザー」中の192ページ左段, 4.1.1放電形状の項の4行目, “(b), (d)の空気放電…”は正しくは“(c), (d)の空気放電…”です。

## ○新入会員

会員番号	氏名	所属	会員番号	氏名	所属
A 1855	加藤 元彦	(株)新 川	1299	石田 敏雄	藤 森 工 業(株)
1856	高橋 幸雄	海 技 大 学 校	1300	劉 中本	東 京 大 学 生 研
1857	宮崎 宏之	日 本 電 気(株)	1301	中川淳三郎	ニ ッ タ(株)
1858	杉山 俊夫	(株)日 立 製 作 所	1302	永田 浩	日 本 光 学 工 業(株)
1859	雑賀 憲昭	大 阪 大 学	(A-1197ヨリ)		
1860	辰巳 賢二	三 菱 電 機(株)	1303	吉住 恵一	松 下 電 器 産 業(株)
1861	深津 喜明	日 本 電 装(株)			中 研
1862	於保 茂	(株)日 立 製 作 所	1304	三澤 成嘉	東 京 工 業 大 学 精 密 研
1863	斉藤 英敏	神 戸 大 学	1305	今井 洋	北 海 道 大 学
1864	後藤 学	ウ シ オ 電 機(株)	1306	岡田 勝行	千 葉 大 学
1865	高橋 暹	山 水 電 気(株)	1307	藤井 義正	住 友 金 属 鉱 山(株)
		技 術 研 究 所	1308	木村 吉武	甲 南 大 学
1866	寺田 健二	千 葉 大 学 大 学 院	1309	永島 道芳	松 下 電 器 産 業(株)
1867	渡辺 卓司	千 葉 大 学 大 学 院			中 研
1868	杉山 久雄	山 本 光 学(株)	1310	疋田 和康	三 菱 鉱 業
1869	鶴 三郎	(株)東 亜 プ ッ ク	1311	石橋 明洋	セ メ ン ト(株)
1870	小林 章兵	岡 谷 オ リ ン パ ス(株)	1312	松下 要	防 衛 庁
1871	関口 修利	オ リ ン パ ス 光 学 工 業			(株)新 技 術 コ ミ ュ
		(株)	1313	石尾 宏	ニ ケ ー シ ョ ンズ
1872	本田 和人	豊 橋 技 術 科 学 大 学			ア テ ネ レ コ ー ド
1873	塚田 真人	(株)東 洋 現 像 所	1314	南 悦治	工 業(株)
1874	加藤 純一	東 京 大 学 大 学 院			シ ャ ー プ(株)
B 1298	谷内田昌寿	長 岡 技 術 科 学 大 学	1315	日野 真	生 産 技 研
					学 習 院 大 学 大 学 院

## 編集後記

本号の解説は画像評価特集としました。光学に関係の深い本誌読者諸兄には、昔も今も変わらぬ関心の高いテーマであると確信します。

画像評価は、しかし、写真を例にとりましても、本号の“最近の技術”で紹介されているような最新の電子技術を駆使した MTF 自動測定機が開発されている一方で、昔と変わらぬ目視の解像力本数読みとりが、現場の第一線でまだまだ主流であるような、いわゆる泥臭い側面があるようです。色の評価にいたってはさらに官能的、主観的要素が強い。

また、同じ画像でも、TV や複写機といった種類やその目的、記録媒体により評価すべき項目も手段も変わる、画像とはかくも複雑なるものかといった感がします。この複雑さの大きな理由の一つは、おそらく画像の持つ情報量の大きさによるものではないでしょうか。

本号に限らず「光学」の解説はできるだけ会員諸氏の関心が高く、かつ、技術的進歩のいちじるしい光学の特定技術分野をまとめて特集を組むよう心がけています。この点で会員諸氏のご希望、ご要望をお待ちしております。

(鈴木、桜井)